⑵　外国為替資金特別会計（別表３参照）

外国為替資金の収支は、前年同期の24億円の受取超過から、７兆4,927億円の支払超過となった。収入は、前年同期（1,036億円）に比べ、２兆3,445億円増加して２兆4,481億円となった。一方、支出は、前年同期（1,012億円）に比べ、９兆8,396億円増加して９兆9,408億円となった。

⑶　その他の特別会計等

その他の特別会計等の収支のうち、主な項目についてみると次のとおりである。

社会資本整備事業の収支は、収入2,281億円、支出5,226億円、差引き2,945億円の支払超過であって、前年同期（4,742億円の支払超過）に比べ、1,797億円支払超過額が減少した。

保険の収支は、収入９兆4,802億円、支出16兆8,717億円、差引き７兆3,915億円の支払超過であって、前年同期（７兆4,011億円の支払超過）に比べ、96億円支払超過額が減少した。

３　国債等・国庫短期証券等

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成23年度第３・四半期 発行(借入)	償還	差引き	前年同期 発行(借入)	償還	差引き
国債等	315,317	221,980	93,337	305,349	138,164	167,185
国債(１年超)	314,787	221,669	93,117	304,797	137,831	166,966
借入金	530	311	219	552	333	219
国庫短期証券等	1,055,644	968,223	87,421	998,999	957,763	41,236
国庫短期証券	940,144	852,723	87,421	878,999	837,763	41,236
一時借入金	115,500	115,500	△ 0	120,000	120,000	△ 0

国債等及び国庫短期証券等の発行（借入）・償還状況は、上表のとおりである。

国債等の収支は、９兆3,337億円の受取超過であって、前年同期（16兆7,185億円の受取超過）に比べ、７兆3,848億円受取超過額が減少した。国債（１年超）の収支は、発行31兆4,787億円、償還22兆1,669億円、差引き９兆3,117億円の受取超過であった。借入金の収支は、借入530億円、償還311億円、差引き219億円の受取超過であった。

国庫短期証券等の収支は、８兆7,421億円の受取超過であって、前年同期（４兆1,236億円の受取超過）に比べ、４兆6,185億円受取超過額が増加した。国庫短期証券の収支は、発行94兆144億円、償還85兆2,723億円、差引き８兆7,421億円の受取超過であった。一時借入金の収支は、借入11兆5,500億円、償還11兆5,500億円、差引き０億円の支払超過であった。

（参考）　実質収支

上で述べた財政資金対民間収支は、各会計等と民間との間における収入支出（窓口収支）のみをとらえたものであるが、各会計等の収支の実態をみるため、これに各会計等相互間の収支（国庫内振替収支）を加えた実質収支を示すと、次のとおりである。

△印は支払超過（単位　億円）

区分	窓口収支 (A)	国庫内振替収支 (B)	計（実質収支） (A)＋(B)
一般会計	△ 30,307	△ 61,876	△ 92,183
特別会計等	△ 169,662	222,595	52,934
財政投融資	10,691	△ 41,239	△ 30,547
社会資本整備事業	△ 2,945	1,816	△ 1,130
外国為替資金	△ 74,927	107	△ 74,821
保険	△ 73,915	75,339	1,424
その他	△ 28,566	186,572	158,007
小計	△ 199,968	160,719	△ 39,249
国債等	93,337	△ 12,687	80,650
国債(１年超)	93,117	△ 12,415	80,702
借入金	219	△ 272	△ 52
国庫短期証券等	87,421	△ 148,032	△ 60,611
国庫短期証券	87,421	△ 159,995	△ 72,574
一時借入金	△ 0	11,963	11,962
合計	△ 19,211	—	△ 19,211
調整項目	△ 8	—	△ 8
総計	△ 19,218	—	△ 19,218

第２　国庫対日銀収支（別表４及び別表６参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成23年度第３・四半期	前年同期
国庫短期証券の発行・償還(△)	8,663	△ 59,563
特別会計の債券売・買(△)	47,323	7,237
財政投融資	44,770	70,330
国債整理基金	2,553	△ 63,093
その他	△ 29,044	△ 46,709
計	26,941	△ 99,035

期中における国庫対日銀収支（＊５）は、上表のとおり、前年同期の９兆9,035億円の支払超過から、２兆6,941億円の受取超過となった。

その内容についてみると次のとおりである。

１　国庫短期証券の発行・償還

国庫短期証券の発行・償還による日本銀行との間の資金調達・資金返済状況をみると、資金調達11兆7,539億円、資金返済10兆8,877億円、差引き8,663億円の受取超過であって、前年同期の５兆9,563億円の支払超過から受取超過となった。

２　特別会計の債券売・買

特別会計と日本銀行との間の債券売買の状況をみると、４兆7,323億円の受取超過であって、前年同期（7,237億円の受取超過）に比べ、４兆86億円受取超過額が増加した。財政投融資は、４兆4,770億円の受取超過であって、前年同期（７兆330億円の受取超過）に比べ、２兆5,560億円受取超過額が減少した。国債整理基金は、前年同期の６兆3,093億円の支払超過から、2,553億円の受取超過となった。

３　その他

国庫と日本銀行との間の経常収支は、２兆9,044億円の支払超過であって、前年同期（４兆6,709億円の支払超過）に比べ、１兆7,665億円支払超過額が減少した。

第３　政府預金（別表５及び別表６参照）

財政資金対民間収支（１兆9,218億円の支払超過）から政府預金（＊６）の増減に関係のない調整項目（８億円の支払超過）を除いた収支は、１兆9,211億円の支払超過であった。また、国庫対日銀収支は、２兆6,941億円の受取超過であった。その結果、政府預金の期末残高は、前期末（１兆3,275億円）に比べ、7,730億円増加して２兆1,006億円となった。